

# ◎ 竜洋地区ウォーキングコース

出発地点・竜洋海洋公園P

竜洋富士⇒サイクリングロード⇒(株)福長飛行機製作所跡⇒大当町渡船場跡⇒共栄橋跡⇒旧掛塚町並み散策⇒掛塚橋⇒掛塚橋木橋跡⇒野崎常夜燈⇒白羽神社⇒長豊橋跡⇒明野陸軍飛行学校天竜文教所跡⇒旧灯台跡、荒井信敬翁の碑⇒しおさい竜洋⇒掛塚湊跡



## ① 竜洋富士

遠州灘の海岸沿いに面した人工の山です。海拔18mとなっていますが、山頂から見える景色は当キャンプ場・竜洋海洋公園、西は天竜川・浜松アクタワー、南は大海原と緑の木々、北は竜洋の町が一望でき、360度パノラマとなっております。天候が良ければ北東に富士山が見えます。



## ② 福長飛行機製作所跡

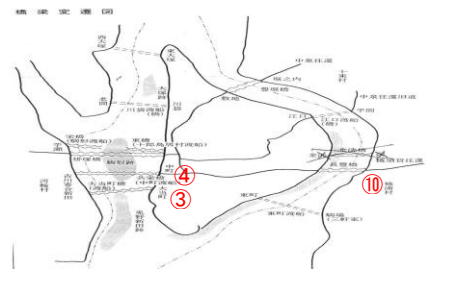
大正8年9月、浜名郡飯田村(現浜松市飯田町)出身の福長浅雄が掛塚地先の天竜川河原に福長飛行機研究所を設立、飛行機の製作と飛行家の養成を行う。弟の四郎、五郎も協力する。



## ★地場産品★ しおさい竜洋

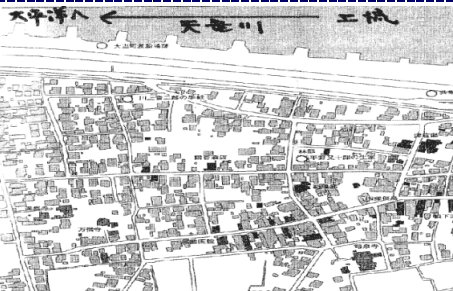
しおさい竜洋の売店は、毎朝入荷の旬の新鮮野菜や地場産品の直売所としてにぎわっている。

しおさいの湯は、光明石大浴場・ラジウム露天風呂である。営業時間は、午後9時まで。和らぎの間(無料)で一休みでき、予約すれば、団体専用の無料送迎バスも利用できる。



## ③ 大当町渡船場跡 ④ 共栄橋跡 ⑩ 長豊橋跡

掛塚地区は昭和19年(1944年)までは天竜川の三角州であった。磐田や浜松への交通手段は、江戸時代までは渡船、明治以降は木橋または渡船であった。磐田方面へは渡船場が2箇所、橋が2箇所あり、浜松方面へは、渡船場が4箇所、橋も4箇所あった。



## ⑤ 旧掛塚の町並み

掛塚地区は、江戸時代には港町として、廻船問屋・材木商が盛んで街は活気を呈していた。明治22年(1889年)、東海道線が開通してから港は徐々に衰退し、大正の初めには港の機能は終わった。掛塚の街には、今なお掛塚湊の繁栄を物語る歴史的財産が豊富に残されている。旧廻船問屋・伊豆石の蔵・塀等である。町並みは、津倉邸から旧郵便局まで、と、林邸から竜泉寺までが見どころである。



## ⑥ 掛塚橋木橋跡

先代の掛塚橋は日本一長い木橋として自慢した時代もあったが、度重なる水害により流出する度に、浜松への移動に難儀を強いられた。特に戦争開始から終戦後しばらくは、落橋のまま徒歩、渡船で渡河せざるを得ない状況で永久橋の架橋が切望された。

昭和27年(1952年)、やや南に国道150号線の一部として着工され、昭和30年(1955年)に有料橋として開通した。長さ 877m 幅 6.5m



## ⑦ 貴船神社

本社の鎮座の年代は詳(つまび)らかでないが、室町時代以前の創立と伝えられている。天正4年(1576年)に社殿の再建を行ったが、この社殿は明治16年(1883年)9月6日の火災に罹(か)かり境内樹木と共にすべて灰燼(かいじん)と帰した。その後本殿は明治20年、拝殿及び幣殿は明治30年に建立された。更に昭和13年には幣殿の増築を行い現在に至っている。社領としては、慶安元年(1648年)10月24日、徳川家光公より朱印地8石の寄進



## ⑧ 野崎常夜燈

野崎の秋葉灯籠は、明治4年(1871年)大工棟梁石川正作の建立したもので、形や彫り物が立派である。この2つの秋葉灯籠は磐田市指定文化財になっている。



## ⑨ 白羽神社

白羽神社は、それより何百年か昔から、『倭建命(やまとたけるのみこと)と、長白羽命(ながしろわのみこと)』をまつる、古い社である。そしてこのあたりの海岸の松林では、牛馬を放牧していて、毎年その牛馬をこの白羽神社の神官が捕らえて、大和の朝廷に献上しているという、由緒ある所であった。



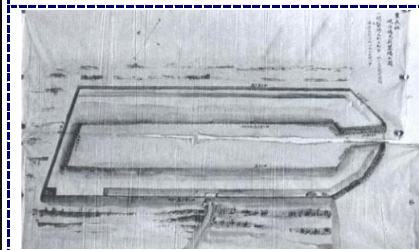
## ⑩ 明野陸軍飛行学校天竜文教所跡

太平洋戦争中、昭和14年(1939年)に工事を開始し、同17年には完成した。200町歩(約198ha)の土地に1600mの滑走路2本、格納庫4棟、射撃場、兵舎が建てられた。当分教場は戦闘機のパイロット教育訓練の場であった。



## ⑫ 旧灯台跡

荒井信敬(あらいしんけい)が明治13年(1880年)に私財を投じて造ったのが、別名を改心灯台と言った。明治30年(1897年)には、北西18mの位置に官製の灯台が完成した。以来100有余年、平成14年(2002年)に現在地(海洋公園南側)に移転した。設置された場所は、それぞれ当時としての地形的意義があり、海岸線が常に変化している現状では尚更貴重なものである。



## ⑬ 掛塚湊

江戸時代より本格的な商業湊として、御用米・日用品・神社仏閣の木材・お城の木材としての材料を江戸、関西に運搬した。徳川家康は特に掛塚湊を重要視し、京都より角倉了以(すみのり)を呼び、天竜川の水運を開拓し、信州・北遠との物資の流通を便利にし、産業の発展に役立たせた。掛塚の街は、廻船業が盛んになり、材木の運搬、加工で活況を呈した。明治22年(1889年)、東海道線が開通したため、海の運搬からコストの安い陸の運搬に変わっていき、湊は衰退

## ★竜洋地区の特産品★

### 海老芋



『海老芋』の生産量全国一(シェア85%)の静岡県の中でも、当地竜洋町は特に有名な海老芋の特産地です。『海老芋』はサトイモの一種で、高級品として伝統的な料理の材料に好んで使用されており、煮くずれが少なく食味もサトイモの中で最高とされています。